

話題のヴァイオリニスト宮本笑里が楽都プラハのソリスト達と奏でる名曲の調べ

Program

- ・ バッハ: 2つのヴァイオリンのための協奏曲 第一楽章
- ・ カッチーニ: アヴェ・マリア
- ・ ラフマニノフ: ヴォカリーズ
- ・ ヴィヴァルディ: 「四季」より「春」「冬」
- ・ 服部隆之: Les enfants de la Terre  
〜地球のこどもたち〜  
(TBS系テレビTHE世界遺産テーマ曲) 他

# 宮本笑里

with プラハ・カメラータ

2010 **10/8** (金) PM6:45 開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

S ¥5,800 / A ¥4,800 / B ¥3,500 / 学生 ¥2,500 (税込)



Emiri Miyamoto  
with Praga Camerata

JAPAN CLASSIC FESTIVAL  
10  
2010

チケット発売所

チケットぴあ 0570-02-9999

(Pコード: 347-430)

愛知芸術文化センター PG 052-972-0430

ローソンチケット 0570-084-004

(Lコード: 40377)

楽フレチケ 92 (III越 PG) 052-953-0777

中日サービスセンター (中田ビル1F) 052-263-7282

イープラス eplus.jp 他

主催: 中京テレビ放送、FM AICHI

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込み下さい。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。

お問合せ  
お申込み 中京テレビ事業 ☎052-957-3333

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F(月～金 AM9:30～PM5:30/土・日・祝日休業)

※未就学児童のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。 ※プログラム内容等は変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

中京テレビ事業 検索



photo:下村一喜

## 宮本 笑里 (ヴァイオリニスト)

Emiri Miyamoto, Violinist

14歳の時ドイツ学生音楽コンクールデュッセルドルフ第1位入賞他。小澤征爾音楽塾・オペラプロジェクト、NHK交響楽団、東京都交響楽団定期公演、宮崎国際音楽フェスティバルなどに参加し、これまでに徳永二男、四方恭子、久保陽子、店村真積、堀正文の各氏に師事。

フジテレビ系ドラマ「のだめカンタービレ」オーケストラのメンバーとしても出演、サッポロビール「エビス<ザ・ホップ>」CMキャラクターとして父である元オーボエ奏者宮本文昭と共演する等、デビュー前からメディアに多数出演。

07年「smile」でアルバムデビュー。

08年TBS系テレビ「THE世界遺産」メインテーマ曲に抜擢され、セカンドアルバム「tears」を発売。コンサート活動を本格化させる。またアニメ「のだめカンタービレ 巴里編」エンディングテーマにも起用。

09年NHK大河ドラマ「天地人」紀行テーマ、映画「クヌート」のメインテーマ、「THEハブスブルク」展のテーマなどを担当。

そしてヤマザキナビスコ「コーンチップ」CM出演、ソニー デジタルノイズキャンセリングヘッドホンTVCMM出演。

最新アルバム「dream」をリリース、全国ソロコンサートツアーを行うなど、今最も注目されるヴァイオリニストのひとり。

同時に、ヴォーカリストのジェイドとのデュオ“Saint Vox”としてもデビューするなど、幅広く活動中。

NPO法人イェロー・エンジェルよりDOMENICO MONTAGNANAを貸与される。

オフィシャルサイト&ブログ

<http://emirimiyamoto.com/> (携帯&PC共用)



## パヴェル・ヒューラ (音楽監督)

Pavel Hula, artistic director

ブラハ・カメラータの現音楽監督であり、1972年からすでに同楽団の前身であるブラハ・チェンバー・ソロイスツのメンバーとして活躍。ソロ活動と室内楽活動の両方のキャリアを成功させている多才なヴァイオリニストである。1975年よりコチアン弦楽四重奏団のリーダーでもあり、世界各地で2500回以上のコンサートを行ない、40枚近いCDをデンオン、スーパーフォン、オルフェオそしてブラハ・デジタルなどからリリースしている。1997年、コチアン弦楽四重奏団はパリにおいてグランプリ・ディスクを授与された。近年では指揮活動にも力を注いでおり、その活躍が期待されている。

# 宮本笑里

with プラハ・カメラータ

テレビ番組や映画のテーマ曲を演奏する、若手実力派ヴァイオリニスト、宮本笑里。“弦の国”チェコの豪華アンサンブルと初共演！トークを交えて名曲の数々をお贈りします。

## プラハ・カメラータ (弦楽合奏団)

Praga Camerata, String Orchestra

室内楽の分野で“大国”の誉れ高いチェコ共和国。プラハ・カメラータはこの伝統を受け継ぐと共に、チェコ・フィルハーモニック・オーケストラの首席指揮者であるヴァーツラフ・ノイマンによって1961年に設立されたブラハ・チェンバー・ソロイスツの伝統を継承している。

このアンサンブルはヨーロッパの全ての国々と日本など広範囲にわたって精力的なツアーを行なってきた。音楽祭では、今までプラハの春、モントルー、フランダース・フェスティバル、シントラ、ストラズブルグ、メントン、アンスパッハ、モントリオール、シャルトル、そしてトゥーロンなどに出演した。一流指揮者、ソリストとの共演も多く、これまでにV・ノイマン、L・ペセク、J・F・マンツォーネ、U・シュナイダー、H・シェリング、G・クレーメル、J・スーク、Z・ルツィコクヴァ、J・P・ランバルらと共演してきた。

プラハ・カメラータはメンバー全員が傑出したソリストと室内楽奏者で構成されて、世界の優れた協奏曲を中心としたレパートリーを意欲的に開拓している。このオーケストラの15人を数える通常の編成は、時折管楽器を加えることによって拡大され、レパートリーの開拓に余念がない。

2003年、プラハ・カメラータはハルモニア・ムンディより分配されたフランスのレーベル、プラハ・デジタルと専属契約で提携を始め、数多くの興味深いプロジェクトに取り組んでいる。最も新しくリリースされたCDでは、芸術監督を務めるパヴェル・ヒューラの独奏によりヴィヴァルディの四季が収録された。統率力に優れ、メンバーからの信頼も厚いヒューラにより生き生きとした音楽が生み出されており、現在のこの合奏団の真髄を聴くことが出来る一枚となっている。プラハカメラータは、メンバー全員が熟練した演奏家であり、彼等の演奏による室内楽は、「まさにこれぞアンサンブルの醍醐味」と、聴く者を納得させずにはおかない。豊かな表現力や感性の鋭さ、音楽の躍動感、彼らのパフォーマンスの大きな特徴である。

2003年、04年にはヴァイオリニスト、タレントとして活躍する高嶋ちさ子と日本ツアーを行い大いに会場を沸かせた。また、同じ組み合わせでコロナビア・ミュージックからCDを発売し、大きな話題となった。

